

授 業 科 目 の 概 要				
(人間社会学部スポーツ科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基本分野	演習	大学で学ぶことの意味を考え、科学的な思考法や自己表現法、資料・情報収集技術を身につけ、広い視野と教養を身につけることを目標に指導・運営する。また、人間関係形成の場としても学生生活を支援する。なお、演習は複数設置されるが、スポーツの基本的理解、大学の制度・施設の理解、講義ノートの取り方、プレゼンテーションの方法、知的所有権の理解など演習横断的に共通テーマが設定され、すべての学生にたいして4年間の大学での学びやキャンパスライフが円滑に行われるように図る。		
		日本語表現法	大学で必要な口頭・文章表現の力を身につけることを目標に、一本のまとまった内容のレポートを完成させて、その内容についてクラス全体の前でプレゼンテーションを行う。クラスメート同士の話し合い活動(ピア・レスポンス)なども取り入れながら、小論文・作文とレポートの違い、レポートに必要な情報の収集、引用表現、図表の入れ方、文献リストの作成方法、プレゼンテーションの資料作り、発表の方法、質疑応答の方法、発表会の設営の方法などを学ぶ。	
	実習	プレゼンテーション実習	グループ活動を通して話すことの難しさを理解し、上手に話すためには何が必要なのかを参加者全員で考える。様々な課題を「楽しみながら」経験することによって、自ら発言(プレゼンテーション)するだけではなく、相手の発言を聴くという、自分と他者との「相互作用」の中から、学び、プレゼンテーションに慣れていくことが目標である。特に本実習では、プレゼンテーションのテクニックよりも、その内容を重視する。	
		コンピューター実習	社会現象に関する調査情報などを処理する上で不可欠である統計的方法とコンピュータという異なる二分野の融合を「情報構造論」として新しく捉えなおし、各種分析などにおける量的分析の基礎的素養を身につけることを主な目的とする。基本的な統計手法を習得させた後、コンピュータによる実習を適宜取り入れ、社会科学分野において最近話題になっている複雑系現象(カオス、フラクタル等)についても取り上げる。	
		現代政治学	前半は「政治学の考え方」「政治の制度」「政治のプロセス」といった政治の基本概念や分析対象を把握し、その後、事例として日本の政治を理解することが目標である。後半は「国際政治」の基礎について学びながら、国際社会の変遷と課題について、国際社会の問題と取り組みについて整理・習得することを目標とする。本講義を履修した結果として、専門科目の学習を行うために必要な基礎を築くことができる。	
		現代法学	生きた法を把握するには、法が具体的に適用される裁判という場が最も有効である。前半では、法と裁判を考えることが目標であり、後半は、国法体系中最高法規に位置づけられる憲法について、近代憲法の確立の歴史、日本国憲法制定の過程を振り返ることから始め、そのうえで憲法に掲げられている基本的人権の保障を、個別的に判例をとおして考察することが目標である。さらに公権力の行使が個人に及ぼす影響を、国民と行政の関係からも考察する。	
		現代経済学	経済学を専攻としない学生を対象に、経済現象全般に対する理解の向上と経済学的論理の理解を図ることが目標である。ミクロ・マクロ経済学の基礎を学び、経済分析の基礎テクニックと方法論を習得することになる。表計算ソフトでマクロ経済のシミュレーションを実習し、また、現代経済学と関連する情報を迅速・効果的に入手するために、インターネットを利用する。なお、本講義では、経済テーマと関連して自発的プレゼンテーションやディスカッションを奨励している。	
		社会と規範	互いに議論するための基礎となる道徳理論や倫理思想を理解することが目標である。とくに、受講者は、倫理について問題意識をもつことの重要性を自覚する必要があると同時に、現在わたしたちひとりひとりが主体的に取り組むべき倫理的課題としてどんなことがあるかを考察し、現実の倫理問題に取り組む際に何が大切であるかを見極めることが必要である。	
		ことば学入門	テキストとレジュメを教材として使用し、受講者がことばについて総合的に考え、学ぶことが目標である。「動物のコミュニケーションと人間のことばの違い」から「ことばの体系と進化」や、さらに、ことばをめぐる最新の話題「日本語廃止・英語公用語化論」現象などを取り上げながら、ことばを言語学の立場から見るときの視点や考え方を養う。	
		哲学と思考	より良く生きようとする人が求める「知」とはいかなるものかを問うところから哲学の根本精神をとらえ、その観点から西洋の哲学を概観することが目標である。西洋の哲学思想史、哲学者たちの議論を顧みて論じてゆくと、決して西洋哲学史の用語や思想類型をたんに「知識」として身につけることが最終目的ではない。受講者は、講義で扱われる事柄について現在自分自身が考えることの重要性を認識し、理解したことについて各自なりに批判的に考えてみる主体的・能動的な態度が求められる。	

科学技術	科学思想史	科学技術について、自然観や探究方法・社会的背景・時代精神を考慮しながら、古代エジプト時代から産業革命期に至るまで時系列的に理解することが目標である。特に科学技術の営みにおける形成過程や思想的側面、社会との関係などに力点を置きながら科学思想の意味・意義を考察し、科学技術の現状認識及び将来展望を受講者が考察する手掛かりを提供する。	
	生物と生活環境	人間の生活と密接に関連する自然環境の構造と機能を、生命の理解と生活環境との関連から具体的に習得することが目標である。具体的な事例として、タバコの煙のような身近な物質・身近な話題を基に解説していく。地球環境問題を生活環境レベルから生物と地球環境との調和・共生を実現していくために、受講者自身が実感しながら検討できる内容を提供する。	
	統計学の基礎	社会調査などでデータがどのように利用され、どのような解釈が行えるか、さらにデータを分析するのに必要な数理統計学の基礎概念を学び、実際に計算し統計学の基礎的な手法を習得することが目標である。データには質的データと量的データに分けられることを理解し、量的データの視覚化、データのちらばりの程度を表す分散や正規分布、質的データの分析法としてのクロス分類と多重クロスを学ぶ。さらに、相関、回帰、検定などの統計学の手法について学ぶ。この科目は社会調査士の資格を取得するのに必要な科目に対応している。	
	情報処理の基礎	コンピュータによる情報技術の観点から情報処理、さらに情報システムと情報社会との関連について学び、知識だけでなく論理的な考え方を学ぶことをねらいとする。コンピュータによる情報処理の可能性や限界を理解し、利用する立場に立って、コンピュータによる情報処理の可能性や社会的インパクトを理解できるようになることを目標とする。なお、国家試験である情報処理技術者試験に必要な基礎知識を身につけることができるので、資格取得をめざす人はこの科目を1年次から履修するのがよい。	
基本分野	健康・スポーツ理論	運動により身体がどのような応答をするのか、またトレーニングにより身体の呼吸循環機能、筋力など身体がどのように適応するのか運動生理学に関する内容を解説する。取り上げるテーマは、以下の通り。 (1)筋の構造及び収縮様式、(2)神経系、(3)呼吸、(4)循環、(5)エネルギー代謝、(6)体温調節、(7)ホルモン、(8)消化吸収と運動、(9)骨と運動、(10)神経支配とトレーニング、(11)骨格筋とトレーニング、(12)心血管系とトレーニング、(13)血液組成とトレーニング、(14)エネルギー代謝とトレーニング、(15)体温調節とトレーニング、(16)ホルモンとトレーニング、(17)水分調節とトレーニング	
	健康・スポーツ理論	健康増進や体力アップに関するトレーニングの紹介及び方法と効果について、以下のテーマに沿って詳細に運動生理学的見地から紹介していく。 (1)体力の評価：個々の体力水準を知る、(2)ウォームアップとクーリングダウン、(3)レジスタンストレーニング、(4)プライオメトリックトレーニング、(5)スピード・アジリティトレーニング、(6)持久力トレーニング、(7)ピリオダイゼーション、(8)ストレッチングの重要性、(9)寿命と運動、(10)老化と運動、(11)肥満と運動、(12)高血圧と運動、(13)糖尿病と運動、(14)体力テスト、(15)身体のトレーニング	
	スポーツ実技	テニス 授業内では、様々なレベルに応じた楽しみ方を紹介する。初心者はラリーを続けられること、シングルスはストロークプレーとネットプレー、ダブルスは前衛と後衛とで戦術に応じてコート全体を使ってプレーを組み立てる。「体育」と異なり「スポーツ実技」としてグループ活動を円滑に行う中で、個々の行動の大切さを学ぶ。	
	スポーツ実技	バレーボール バレーボールの基礎を習得するとともに、実技内では、6人制の競技を基本に、人数、レベルに応じて方法にアレンジを加え楽しくプレー出来るバレーボールを展開する。初心者でもレベルを向上しながら、より多くのゲームを経験することを目的に行う。「体育」と異なり「スポーツ実技」としてグループ活動を円滑に行う中で、個々の行動の大切さを学ぶ。	
	スポーツ実技	バスケットボール ドリブル、パス、シュートなどバスケットボールに必要な基本技術を身に付けた上で、5人対5人の攻防を原則として、チームごとの戦術、展開をもち、対人で行うボールゲーム独特の駆け引きの中から得点を競い合う楽しさを味わってもらいたい。「体育」と異なり「スポーツ実技」としてグループ活動を円滑に行う中で、個々の行動の大切さを学ぶ。	
	スポーツ実技	ゴルフ 各クラブの使い方を中心に進め、遠くまでボールを飛ばす技術、目標的に確にボールを寄せる技術を身につける。また、自分のスイングをチェック出来るよう、デジタルカメラによる16分割写真を撮り、課題の確認、修正などを行う予定もある。	

基本科目

フランス語	<p>初習外国語としての基礎フランス語文法を以下の目標の基に学ぶ。 (1)フランス語の単語や文を発音できるようにする。(2)簡単な文を訳す力をつける。(3)フランス語を学ぶことによってフランス文化を知り、日仏の文化の違いを理解する。(4)常に明晰な思考力を求めようとするフランス語を学ぶことにより、論理的な思考力を身につける。(5)フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る。(6)簡単な日常会話のできる能力を身につける。</p>	
フランス語	<p>フランス語では文法を中心に講義するのに対して、本講義ではもうすぐフランスに行く想定して、楽しく分かりやすい形で実際に使えるフランス語を身につけるとするのが目標である。最初に、フランス語の音に慣れ、発音の規則を確実に身につける。また授業ではできるかぎりフランスの現状も紹介し、フランス語とフランスの文化の両面にも親しんでもらえるように工夫し、映画や音楽も紹介する。</p>	
ドイツ語	<p>基本的な文法事項を単に機械的に覚えるのではなく、実際の文例の中で有機的に捉えてゆくことが目標である。語彙も日常的によく使用されるものに限定する。動詞の現在人称変化、冠詞・名詞の格変化は後の学習にも大きく影響するため、的確に習得する必要がある。またテキストには単語集も添付されており、語彙力を確実にするために活用できる。講義の後半は文例を応用した独作文の練習を繰り返し実施し、実際に使用できるドイツ語を習得することを目標とする。</p>	
ドイツ語	<p>ドイツ語の文法中心の授業に対して、本講義では日常会話的なドイツ語を主として取り上げる。ストーリー性のあるテキストを用い、日常生活で使われるドイツ語を通して、「ことばと文化」を学ぶことが目標である。キリスト教と市民精神という共通の基盤を有しながら、ヨーロッパ人でも特異な国民性を持つドイツ国民が、自らをどのように捉えるのかを知る必要がある。なお、ことばの学習の上達には、自分の考えや感情を述べるのが第一義と捉え、学生各自が自分のケースに当てはめて語学を習得することが重要である。</p>	
ロシア語	<p>ロシア語を基礎から学び、ロシア語の一番核になる部分を習得することが目標である。ロシア語のアルファベットからはじめ、ロシア語文法の基礎を学び、「読む・聞く・話す・書く」を総合的に訓練する。なお、重要なことは、ロシア語の文字と発音に慣れ、基本的な文法構造を理解し、簡単な文章が読め、簡単な表現ができるようになること、そして何よりロシア語とロシアを身近に感じられることである。本講義を一年間受講することで、ロシア語のもっとも主要な骨格を習得できる。</p>	
ロシア語	<p>ロシア語では、基礎的文法の習得が目標であったが、本講義では、所定の教科書を援用しながら、ロシア語の習熟度の向上を目指し、応用的なロシア語文法を習得するのが目標である。なお、受講生には、ロシア語という枠組みを超え、何かを一から学ぶということ、国際的なコミュニケーションをするということの意義に関して、語学を通して会得することを奨励する。</p>	
スペイン語	<p>優しい日常会話を身につけながら基本的な文法を学び、生きたスペイン語の習得をすることが目標である。また、スペインの文化について学びながら初級の文法的表現を身につけるように、その日その日のテーマについてスペイン語でやりとりする。教科書に基づいて直説法現在、過去と未来を使って会話をする。 前半は、アルファベット、発音、動詞SER、名詞の性と数、動詞ESTAR、直説法現在(規則動詞)、動詞HABER。後半は、直説法現在(不規則動詞)、人称代名詞の核による変化、比較級、直説法過去、不完了過去、直説法未来、無人称表現、現在進行形、現在完了。</p>	
スペイン語	<p>スペイン語に引き続いて会話と文法を習得すると同時に、基礎的な理解をさらに深め、生きたスペイン語を身につけることが目標である。スペイン語の会話力にとどまらず、スペイン語の教材を援用しながら、スペイン語の「読む力」と「書く力」を実践的に身につける。主なテーマは以下の通り。 前半は、人称代名詞、再帰動詞、受け身表現、無人称表現、直説法過去、関係代名詞など。後半は、接続法現在、接続法過去、仮定文、命令文など。</p>	
アラビア語	<p>アラビア語の文法の基礎を学び、学習したことをもとに、作文や自己表現にも取り組むことを目標にする。テキストは、クラスの学習進度に合わせて選んでいくので、毎回の授業でプリントを配布する。テーマは以下の通り。 (1)アラビア語入門：「文字を学ぶ-アラビア語は右から左へ、文字と文字をつなげて書く」、「発音、母音記号」、「自分の名前をアラビア語で書く」、「意味がわからなくてもテキストを音読してみる」。(2)文法：「名詞文。授業と宿題で、繰り返し練習」。(3)日常会話表現。毎回表現を少しずつ増やしていく。</p>	
アラビア語	<p>アラビア語の文法を身につけ、自ら作文や自己表現ができるようになることを目標にする。日常会話表現の練習や、視聴覚教材などを通じて、生きたアラビア語圏の文化や社会に触れる機会を設ける。テーマは以下の通り。 (1)初歩の学習の復習 (2)簡単なテキストを読む (3)自分をアラビア語で表現する(家族、大学生活など) (4)日常会話 (5)アラブの幾つかの国の理解を助けるビデオ(アラビア語で訳つき)を見る (6)アラビア語の子供向けのやさしい歌を聞き、理解する。</p>	

外国語 英語を除く	中国語	<p>初学者を対象に、通年で中国語の発音及び初歩的な文法知識を学習する。正しい発音・声調、平易なあいさつ用語の習得及び簡単な文章が読めるようになること、平易な文章の読解と簡単な作文ができるようになることを目標とする。テーマは以下の通り。</p> <p>(1)中国語の発音 (2)声調からはじめ、簡単なあいさつ用語を練習 (3)基礎文法の学習 (4)作文の練習 (5)ビデオ録画(中国の紹介、日中文化・風俗習慣の比較)の鑑賞 (6)中国語の歌の学習。</p>	
	中国語	<p>この授業は中国語 とセットで授業を行うため、必ず 、 両方を履修するのが望ましい。授業は発音編の次に、本編に沿って各課ごとに文型を説明した後に、文型をベースにした教材文を学習することになる。会話形式になっている教材文の意味を理解した上で、役割分担で反復練習を行う。反復練習を通して、文法知識を確認し、総合的能力の向上を図り、さらに学習した文法を基に作文練習も行う。</p>	
	韓国語	<p>韓国語の文字の書き方や読み方、発音規則、基本的な文法事項などを練習し、入門レベルの韓国語を身につけることが目標である。特に難しいと言われている韓国語の発音については、重点をおいて確認していく。到達目標は、文字の読み書きを身につけると同時に、挨拶、自己紹介など簡単な日常会話を行うことができるレベル。なお、この講座の授業は「韓国語 」とセットになっているため、同時に履修するのが望ましい。</p>	
	韓国語	<p>韓国語 では基本的な文法が中心であったのに対して、本講義では、基本母音の聞き取り、子音の発音と子音の聞き取り、二重母音の発音、終声の発音などを反復練習し、さらに、仮名のハングル表記について習得する。総合発音練習を終えた後、発音規則を習得し、助詞の用法と 助詞の種類、代名詞などを習得する。また、語学を学ぶと同時に、韓国の映画とドラマや 大衆音楽など文化にも触れる。講義の最後には、韓国語の検定試験について注意を促す。</p>	
英語	リーディング	<p>比較的平易なテキストを使用し、意味のわかる英文を何度も音読・黙読することで、英文の内容・情報の大切な点を素早く読み取る力をつけ、「使える英語」の基礎となるような英文読解力・英語運用能力を高めることが目標である。ペアやグループで課題に取り組み、コミュニケーション能力を培う。語彙力の強化、基本文法のおさらいとして文法解説にもある程度の時間を割いてゆく。ニュースやDVD教材、映画などのメディア英語も積極的に活用する予定。</p>	
	リーディング	<p>これまで学習してきた基本的な語彙、文法、語法を整理・確認しながら、まとまった内容のある文章を読む練習を行い、的確な英文読解力の養成を図る。内容を正しく把握すると同時に、自らその内容について問題点をつかみ取りそれについて文章を書くなど、英語運用能力を高める。授業の中で、適宜日本語・英語によるディスカッションを行う。時間の余裕があれば、幅広く多彩な英文を読解する機会をもつけ、英米文化への幅広い教養の下地を作る。</p>	
	ライティング	<p>英語の作文能力を高めることを目標とし、文を作るために最低限必要な基本的文法・語彙を確認しながら英作文の練習を行ない、文型を身につける。学生は毎回課題(英文エッセイ)を書き、授業に持ち寄りPCに入力、教師が何人かの文章をPC上で添削というのがたいたいの流れ。DVDなど視聴覚教材も使い、音声情報としてインプットすることで、高度に思える話題も取り組みやすくする。また、授業の中でTOEIC Bridgeの対策も行う。</p>	
	ライティング	<p>英語で書かれた文章の読解、基礎的な文法・語彙の確認を行いながら、自分の考えをまとめて、まとまった長さの英文を作成する力を養成することが目標である。さらに、文章を構成する上で基本となるパラグラフの構成のしかたを基本から学習し、最終的にはレポート作成を行う。</p> <p>教科書に沿って以下のようなテーマを取り上げる。</p> <p>(1)基礎的なリーディングと理解確認 (2)文法の確認 (3)文章読解と語句確認 (4)発展的読解練習と文法練習 (5)パラグラフ構成練習</p>	
	オーラル・コミュニケーション	<p>受講中は、英語を使用しなければならない。教科書を声を出して読むことから、二人ペアでの会話、小グループでのディスカッション、短いプレゼンテーション、シミュレーションやロールプレイゲームなど、あらゆる方法で会話の練習を行う。カセットやビデオクリップを使って正当な英語の聴取練習も行う。英語の基本的な文法構造と、それらが会話の状況でどう使用されるかになじみ深くなることで、聞く・話す基礎能力を身につける。</p>	
	オーラル・コミュニケーション	<p>受講中は、英語を使用しなければならない。会話を聞いて話すことによって、バーバル・コミュニケーションとリスニング・スキルを上達させることが目標である。取り上げるテーマは、以下の通り。</p> <p>前半は、講義要綱と要件/学習戦略、自己紹介と挨拶、個人情報を尋ねる、学生インタビューとpairwork、日常の事柄/人々/状況について説明する、お気に入りの音楽/ミュージシャンに関するミニプレゼンテーション。</p> <p>後半は、講義要綱と要件/会話スタイル、過去の出来事と個人的な経験について説明する、旅行/買い物/レストラン、デートで、最終的な会話プロジェクト。</p>	

学科間共通専門科目	演習	演習 で習得した大学における基本的な学習方法や研究発表方法などを更に向上させながら、専門領域の理論や実践技術を文献調査・ディスカッション・プレゼンテーションを通して身につける場とすることが目標である。すなわち演習 では、各演習内容の共通化を図ったが、演習 では、各演習の担当教員の専門分野に応じて独自のテーマが設定され、演習内容は基礎的な段階から専門的な段階に入り始めることになる。なお、演習ごとに研究テーマは異なるが、随時横断的に研究発表を行い、各演習相互の交流を図る。	
	演習	演習 に引き続いて、演習は、担当教員の専門分野に応じて複数設置され、各演習の主要なテーマについて文献調査・ディスカッション・プレゼンテーションを通して思考力と実践力を向上させる。各演習のテーマは、演習における基礎的な内容とは相違し、より専門性が加わる。また、4年次での卒業研究の準備として、履修者各自の問題意識を高め、関心のあるテーマを探究させることを目指す。	
	演習	演習 に引き続いて、履修者各自の関心に基づいて卒業研究のテーマを決定し、研究作業を開始することが目標である。なお、卒業研究は、論文形式及び実技による成果のプレゼンテーションなど多様な方法がある。履修者の関心や卒業後の目的に応じて多様な研究作業の機会が提供される。	
	卒業研究	大学4年間を通じて身に付けた知識や教養、あるいは中学、高校時代から続けてきているスポーツ種目について新たに理解できたこと、疑問点など、または日本スポーツ界全体の発展に寄与できるようなことをテーマとし、アスリートとして、指導者の立場として、さまざまな方向からのアプローチを想定しながら研究をし、集大成として研究論文を書く。できれば担当教員の専門分野に応じてテーマやアプローチの仕方などをしぼり、指導を仰ぎ論文を書くことが望ましい。	
	総合講座	複雑で多様な現代社会に対応する幅広い知識や教養を育成することが目標である。したがって、原則として基本テーマは年度ごとに相違する。毎年、統一した基本テーマのもとに、社会学、比較文化論、情報学、あるいは心理学など多様な視点から講義が実施されることになる。特に、学内外にかかわらず、実社会で活動経験のある講師を招聘し、多彩で具体的な情報を提供する場合もある。なお、講座では、受講者に質疑の機会が与えられ、講師と受講者との相互方向の情報交換が重視される。	
	社会学概論	前半は、以下の「社会学」の基礎的事項を習得することが目標である。 (1)社会学の成立と発展について理解する。 (2)社会学の基本的な枠組み、思考方法について理解する。 (3)近代～現代、モダン～ポストモダンへの社会変動を理解する。 後半は、前半の内容を踏まえ、以下のテーマで現代社会のさまざまな社会問題ならびに個々の諸領域についての社会的な見方を習得する。 (1)都市・農山漁村などの地域社会の社会的な特徴を理解する。 (2)エスニシティとグローバル化 (3)福祉国家 (4)社会調査 (5)家族	
	文化人類学概説	前半は、人類社会のあり方を、技術・生産的な側面（生態人類学）と交換・経済的な側面（経済人類学）から見ていくことが目標である。後半は、それらを基礎としながら、「社会」や「文化」に一層の比重を置いて考察する。テーマとしては、個人、家族、親族や部族、ジェンダー、王権社会、民族、国民国家といった社会システムのあり方、そしてそれに深くかわるさまざまな「文化装置」としての言語、宗教、儀礼といった諸現象を、現代社会に生きる私たちの問題として考えながら授業を進める。ビデオ、DVDなど映像を利用する。	
	社会福祉概論	社会福祉を初めて学ぶ人を主対象として、現代の社会福祉について全体的な理解を図ることを目標に、主要な理論・分野・制度を解説する。前半では、社会福祉の基本的なテーマにそって、概念、理念・権利について学び、国際社会におけるわが国の社会福祉を客観的に認識できるようにしたい。後半では、更に具体的に社会福祉及び社会福祉政策に関してその内容を学ぶ。	
	心理学概論	この講義では心理学という学問分野を全般的にながめ、心理学的な考え方や方法論を理解することが目標である。前半は、基礎的な分野を中心に学習し（実験心理学/学習・記憶、動機づけなど）、後半は、応用的分野と呼ばれる領域の多く（性格・知能の形成、認知・社会的行動の発達、対人認知・態度、自己と他者、集団の心理、精神障害のモデルなど）を学習する。	
国際スポーツ文化論	消費社会、多文化社会のもとで多様化、グローバル化が進展する現在のスポーツ文化は国際的に社会への強い影響力をもっていると同時に、大きな矛盾や問題も抱えている。本講義では民族スポーツ、伝統スポーツの変遷および近代スポーツ成立以降のスポーツ文化の変容について学び、その上で現代の国際的なスポーツ文化の特徴と問題点について多面的な視点から検討し、これからのスポーツ文化のあり方を考えることを目的とする。		
社会情報学	日本のマスメディアの発達を通じて、社会における情報のあり方を学び、メディアの発展を通して社会と情報のあり方を考える。具体的なテーマとして、インターネット、携帯電話などを通じた最新の研究やマス・コミュニケーションの理論の歴史、テレビと子ども、災害情報などを切り口に、社会における情報を考える。		

社会心理学	前半の授業では、実際に行われた研究を題材に、社会心理学の歴史や方法について学ぶ。後半の授業では、これまで社会心理学が探究してきた人間の社会的行動のいくつかの側面についての知見を解説する。社会における自分を理解するとともに、自分を取り巻く社会的環境を理解してほしい。講義では、ただ解説を聞くだけでなく、指定した話題についての議論やデータ解析を体験することになる。	
発達心理学	前半は、人間発達の特異性について概説したあと、乳幼児期、児童期、思春期について各段階ごとの発達課題と起こりやすい問題、病理の特徴を理解することを目標にする。できる限り具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学んでいく。後半は、青年期から老年期までの各発達段階の特徴を概説したのち、生涯発達心理学的立場から青年期・成人期・老年期に生じるさまざまな心の問題とそれへの対処方法について学んでいく。	
医療社会論	病気や医療の現実を、社会的視点からアプローチすることにより見えてくるものに着目し、読み解いていく見方を学び、それにより新たな問題への気付きを理解することによる視野を広げる。前半では個人や集団としての生活と健康や病い、病むことに関するテーマを取り上げる。また、医療と人々の相互作用及びその変容に関しても理解を深める手がかりを扱う。後半は、わが国及び諸外国の医療制度を、より広い社会的な側面から捉える視点を養う。	
対人関係論	現代社会で人間関係を維持していくためにはどうしたらよいのだろうか。もし、関係がうまくいかなかったときはどのように対処したらよいのだろうかを考える。前半は、人間関係場面での自己についての知識、他者との出会いから親密になる対人関係のプロセスと対人関係の言語的・非言語的コミュニケーションを中心に学ぶ。後半は、対人関係における人間関係の諸側面、つまり好意的人間関係、嫌悪的人間関係、援助的人間関係、支配と服従の人間関係、攻撃行動、及び集団における人間関係について学ぶ。	
組織コミュニケーション論	年間で大きく3つの柱を立てて進める。第1の柱：組織における人間行動の基礎をモチベーションの視点から考察する。第2の柱：リーダーシップの問題を取り上げ、理論の変遷やリーダーのあり方を考える。第1、第2の柱についての理解を基礎として、第3に組織コミュニケーションのあり方について個ならびに集団の観点から探ってゆき、職場環境づくりの手がかりとする。職場コミュニケーションの視点から、世代間ギャップの問題、性別役割、セクシュアル・ハラスメント、職場でのいじめの問題などについても考察する。	
ひととことば	人と人とのコミュニケーションにおける重要な手段として、「ことば」がある。私たちは日常的に、その時々場面や状況、あるいは人間関係にふさわしいことばを選択して、それぞれに適切なコミュニケーションを行っている。これを「待遇表現」と言い、その中でもよく問題にされるのが敬語である。この授業では、敬語を中心とした日本語の待遇表現の体系と特徴について、近年盛んなボラリティネス理論も参照しながら、検討していく。	
西洋史概説	ヨーロッパ、特に近代イギリス史について、基本的な知識を得ることが目標である。イギリス史上重要な事件を解説するほか、イギリスとヨーロッパ大陸、及び植民地との関係にも言及したい。世界史において重要なできごとは詳細に学ぶ。前半は古代から近世まで、後半は17世紀後半から近代まで。講義が中心であるが、時代背景を理解しやすいように、百年戦争やピューリタン革命に関する映画、18世紀後半のイギリス海軍についてのTVドラマ、貴族に関する映画などを鑑賞する。	
東洋史概説	主として古代中国について学習する。古代中国に関する智識を習得するとともに、「歴史」を「過去の遺物」としてではなく「現在をよりよく生きるための指標」として捉え直してもらおう事を、最大の目標としている。取り上げるテーマは、以下の通り。 (1)三皇・五帝(神話・伝説の時代)(2)夏・殷・周三代(3)春秋(4)秦の始皇帝(5)三国・南北朝時代(6)開元の治(7)東アジア共同体の解体(8)契丹(遼)の成立(9)五代十国と北宋の成立(10)モンゴル帝国(11)元朝の社会と経済(12)明中期の社会と経済(13)清朝の成立。	
日本史概説	前半では、幕末から明治時代以降の日本の近代国民国家形成を中心に、後半では、日本近代の概説を検討しながら、近代と格闘した人物を取り上げる。同時に地域の歴史(ふじみ野市の近代)にも触れ、身近な過去を表象する。取り上げるテーマは、以下の通り。 (1)ペリーの来航と幕府(2)藩の動向(3)幕末の政争(4)明治憲法体制と教育勅語体制(5)大正デモクラシーと諸運動(6)関東大震災と昭和恐慌(7)統制経済とアジア太平洋戦争(8)人物の歴史。	
人文地理学	地理の基礎的知識を再確認するとともに、人文地理学の基本的な考え方を理解してゆくことが目標である。前半は、人口地理学と村落地理学を取り上げる。後半は、まず、文化地理学の基本的枠組と文化地理学の展開について解説する。次に「民族」をキーワードとして、主に、東南アジアのマレーシアにおける社会経済構造の変化や村落と都市の変貌、民族問題などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにする。	

質的調査法	フィールドワークについて、様々な調査実践の具体例からその考え方と方法を学ぶことが目標である。具体的には、調査作業の方法をはじめ、データの整理とその分析、記録と整理、調査の点検、参考文献の集め方、問いの問い直しと分析、振り返りなどを、実際にエクササイズしてゆく。受講者は、複雑な社会・文化現象を調査・分析するための複眼的な視点の修得を目指すことになる。	
スポーツ心理学	スポーツ競技場において良いパフォーマンスを残せるのは最終的には自分自身の心的問題をクリアできた時である。当然のことながら身体的能力とのバランスが一致した上での問題解決であるが、ピークパフォーマンスの発揮を目的とした運動意欲、自己コントロール能力、集中力等の心理的スキルの向上について学習することによりさらに、競技能力は高まると思われる。また、健康のためのスポーツ活動においても目標達成と課題追求を行うことは有意義なことでありその手法について学習する。	
スポーツ社会学	具体的事例からスポーツを分析することによって、メディア、教育、ジェンダー、ナショナリズムなどの社会問題や現代社会を、社会学的な視点から読み解く力を養うことが目標である。受講者は、第一に、本講義の論点を理解すること。第二に、スポーツを通して「考える力」を養うことが必要である。講義ではビデオなどのビジュアル教材を使用し、抽象的な議論に終始するのではなく、あくまで具体例を中心に議論を進め、受講者に意見を求める。	
生涯スポーツ論	生涯スポーツとは子供からお年寄りまで、健康者、障害者をも含めた全ての人が、生きいきとスポーツを楽しむことのできる社会を生生涯スポーツ社会という。その社会を作るにはどのようにしたら良いのかを、日本の生涯スポーツ、他国の生涯スポーツの歴史的背景をから探求する。特に日本の生涯学習の中で、教育の中に位置づけられている体育・スポーツのあり方を歴史的背景から考える。また、どのように指導し普及させたらよいかを具体的に話し合いながら進める。地域でどのようにスポーツが行われているか実際に体験をする。	
スポーツウエルネス	スポーツ科学を基に身体運動理論を理解すると共に、健康な身体活動の実践を学ぶ。本講義では、身体活動によって姿勢を整えることが、よりよい生活の実践に大きな役割を果たすことをわかり易く学ぶ。学生はこの授業を通じ、姿勢の変化が身体に与える効果と影響について、生理学的及びバイオメカニクスの観点をもとに理解を深める。また、実践的な姿勢改善のための運動方法を体験的に学習することで、自身の身体に起こる変化を認識し、姿勢の重要性についてさらなる理解を深める。	
スポーツメディア論	グローバルなスポーツ市場におけるメディアの可能性を次の観点から理解し、21世紀型スポーツメディアの展開について学ぶ。(1)スポーツメディアの現状と問題点、(2)スポーツ番組の構成と制作現場、(3)インターネットの進展に伴ったスポーツメディアの新展開、(4)スポーツメディアと企業戦略、(5)スポーツメディアとグローバリゼーション。 講義において、スポーツキャスターやジャーナリストの視点をふまえながら、スポーツ番組の制作手法を学習し、現代社会におけるスポーツメディアの位置と意味について理解することを目標とする。	
ダンスファンダメンタル	ダンスは、「身体の作文である」。自分の思想感情を身体で表現することを目標にしながら、自分の身体を自分の意志でコントロールするための基礎的体育成（身体練習、リズム練習、柔軟）を行い、表現性を広げる。また、フォークダンス（リズムカルな曲、滑らかな曲）を行い、曲に合わせて動くことの楽しさを体験しながらダンスの基礎を体得する。さらにすべてのスポーツを実施する上で必要とされる身体コントロールを行う。	講義 10時間 演習 20時間
インターンシップ	夏休みの実習を通じて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や将来の職業選択について考えることで、キャリア発達に向けての知的基盤の確立と勉強意欲のさらなる向上を目指す。テーマは、以下の通り。 (1)大学教育とインターンシップ (2)企業からみたインターンシップ (3) マナー講座 (4)仕事への取り組み (5)職場でのトラブルへ対応 (6)守秘義務 (7)直前の準備 (8)夏期休暇中に実習 (9)実習報告書提出 (10)報告会準備 (11)報告会 (12)総括と次年度に向けての改善点。	
ボランティアワーク	ひとり一人が何らかの役割をもち、共に社会を形成していく市民社会の創造が必要であることが指摘されている。実現のための取り組みの一環としてボランティアを位置づけ、ボランティアの考え方と実践のためのスキルを身につける。実践の場として、大学内における障害学生支援やボランティアサークル活動、あるいは大学外におけるボランティア活動を積極的に行い、レポートにまとめる。これにより、市民としての自分とより良い社会とは何かについて考えを深める。	
キャリアプランニング	卒業後に、社会の一員として社会に適合し、生きていくという「キャリア」としての考え方と意義を学ぶとともに、自らのキャリアをどのように形成し計画していくのかというキャリアプランニングに必要な基礎的な知識を学ぶ。テーマは、以下の通り。 (1)キャリアプランニングとは、(2)働くことの意味、(3)コミュニケーションの仕方、(4)キャリア実践の現場から、(5)将来について考える。	

学科間共通専門科目	キャリアプランニング	卒業後の進路として、職業の分野別・目的別に即した仕事の理解や意義を学び、キャリアプランニング形成を目指す。		
	キャリアプランニング	キャリアプランニング形成のための実践として、資格取得に直結した実務・技術の習得を目指す。		
	特別実習	大学が指定したクラブ活動（硬式野球部・サッカー部・女子サッカー部・ゴルフ部・女子ソフトボール部・チアリーディング部・駅伝部・吹奏楽団）を1年次において継続し、そのクラブ活動でより高い成果を得ようとする場合に受講できる。「活動実績」「活動内容」「参加状況」「目標および計画」を「活動報告書」として1回提出する。		
	特別実習	大学が指定したクラブ活動（硬式野球部・サッカー部・女子サッカー部・ゴルフ部・女子ソフトボール部・チアリーディング部・駅伝部・吹奏楽団）を2年次において継続し、そのクラブ活動でより高い成果を得ようとする場合に受講できる。「活動実績」「活動内容」「参加状況」「目標および計画」を「活動報告書」として1回提出する。		
	特別実習	大学が指定したクラブ活動（硬式野球部・サッカー部・女子サッカー部・ゴルフ部・女子ソフトボール部・チアリーディング部・駅伝部・吹奏楽団）を3年次において継続し、そのクラブ活動でより高い成果を得ようとする場合に受講できる。「活動実績」「活動内容」「参加状況」「目標および計画」を「活動報告書」として1回提出する。		
	特別実習	大学が指定したクラブ活動（硬式野球部・サッカー部・女子サッカー部・ゴルフ部・女子ソフトボール部・チアリーディング部・駅伝部・吹奏楽団）を4年次において継続し、そのクラブ活動でより高い成果を得ようとする場合に受講できる。「活動実績」「活動内容」「参加状況」「目標および計画」を「活動報告書」として1回提出する。		
	海外ゼミナール（1）	夏季あるいは春季休暇中に現地に滞在し、集中的に語学研修を受けるだけでなく、フィールドトリップ、ホームステイ、地域住民との文化交流プログラムなどを通じて異なる文化や価値観を有する社会の人々との相互理解を深めるとともに、多文化・多言語化する国際社会に対応する実践的なコミュニケーション能力・意思伝達能力を向上させることを目標とする。現地での語学研修は研修先の大学によって多少異なるが、総授業時間数は127時間から140時間ほど。		
スポーツ科学科専門科目	コース間共通専門科目	解剖生理学	運動やスポーツ活動を行い、運動・スポーツ活動の法則性を理解するには人間のからだの構造と機能についての知識・理解は必要不可欠である。 本講義においては筋系、神経系、呼吸系、循環系についての構造と機能について将来運動に伴うからだの構造や機能変化を理解するのに役立つ器官についてわかりやすく解説する。特に筋系においては骨格筋の収縮、肥大、筋の性質について、神経系については運動神経、自律神経、小脳、大脳運動野などについて、呼吸については呼吸運動やガス交換と運搬などについて、循環系については心臓、末梢循環、血圧などについて講義する。	
		スポーツ生理学	身体を動かすには、身体全体のあらゆる機能を有効活用しなければならない。すなわち、神経・筋機能や感覚機能以外に、呼吸・循環機能や消化・吸収・排泄機能、代謝・内分泌機能などの肉体的要素の協調・総合・支援などに関する生理学的な作用や体格・姿勢といった形態的要素が大切になるだけでなく、意志・判断・意欲やストレスに打ち勝つための精神的要素も欠くことができない。本講では、運動に極めて直接的に関与する神経・筋系の働きと運動時の呼吸・循環器系の働き、及び運動時のエネルギー代謝について、分かりやすく解説する。	
		スポーツ栄養学	スポーツ選手は、競技種目特有の技術力向上と基礎・応用力や精神力の維持・強化などにより競技力を向上させ、記録更新や目標とする競技成績達成のために日々努力している。スポーツ栄養学では、スポーツ選手の身体組成や基礎代謝、競技種目・ポジション別活動量などの基礎的知識の理解を深めた上で、期別（通常トレーニング、試合、オフ）の栄養摂取や傷害・疾病予防、性別や年代別のコンディション維持のための具体的な栄養・食事サポートの方法について、分かりやすく解説する。	
		スポーツ解剖学	運動やスポーツ活動を効率的、安全に行うには筋、骨、関節、神経、呼吸、循環系についての解剖学的な知識は重要である。本講義においては実際のスポーツ活動に役立つ各種動作とスポーツ解剖学について基礎的な知識を習得することを目的とする。具体的には人体の部位、骨関節の基本構造、筋についての基本構造、脊柱や骨格についての構造、腱や靭帯、運動器の構造や機能、関節運動などについて講義する。	

スポーツ医学	<p>スポーツ医学には健康スポーツ（健康維持・増進、趣味）と競技スポーツがある。共通の課題としては、基礎トレーニング、スポーツ傷害・障害の予防・治療、運動療法がある。競技スポーツ選手はそれぞれの肉体的・精神的限界に挑戦するために運動器官、運動生理、栄養学、運動プログラム、イメージトレーニング、バイオメカニクス（運動のコンピューター解析）、メディカルコンディションに関して専門的で高度な知識と実践が要求されるので、これらのことを学ぶ。また、発育期のスポーツやドーピングの問題にも配慮する。</p>
スポーツ哲学	<p>現代社会における体育とスポーツのあり方を考え、「スポーツとは何か」、「体育とは何か」、「スポーツを教えるとはどういうことか」等の概念や意味を学び、スポーツに関する幅広い知識と総合的な教養を身につけることを目標とする。遊び・運動・体育・スポーツ等の用語の意味や内容の違いを理解し、学校体育の現状やスポーツ実践の今日的状況を考察し、スポーツ指導を行う上で基本原理を習得する。</p>
体育史	<p>人類史の発展とともに、古代・中世・近世そして近代と推移した各時代の体育・スポーツの歴史を学び、指導者として必要な知識を習得する。また、体育・スポーツの歴史の変遷と成立を学ぶことで現代の体育・スポーツの動向を理解し、諸問題を考える際の基本的知識を身につける。</p>
生涯教育論	<p>人間は、生涯にわたり学修する必要がある。学修することによって自己の生活が豊かになる。人間の学びは、幼児期に始まり、成人になってもビジネスやスポーツ、生活に必要な知識・技術など、学校でのフォーマルな学修に加えて学校以外でのインフォーマルな学修を通して、楽しく、豊かで、充実した生涯を形成することに資する。本講義では、学ぶ側の立場を生涯学習論の視点から論じ、分析する。そして生涯の学習を支援する、又は指導する側の立場を生涯教育論の視点から、諸外国の例も取り上げつつ、実践に役立つ知識の習得に努める。</p>
運動機能解剖学	<p>運動機能を支える構造として横紋筋、腱、骨、軟骨、関節包及び関節軟骨があり、これらが有機的に関連していることを理解する。日常的行動及びスポーツでは、多数の「骨・横紋筋」の組み合わせが活動することを実際の運動を通して理解する。一定程度の運動能力の発達は繰り返しの練習にあることを理解する。さらに、円滑な合目的運動は意識的、無意識的に大脳皮質及び小脳が横紋筋を統御することによってなされることを学ぶ。</p>
衛生・公衆衛生学	<p>衛生・公衆衛生学では、社会や環境とヒトの健康の保持増進との関わりについて理解することを目標とする。急速な高齢化社会に伴う医療・保健・福祉の問題（生活習慣病や要介護高齢者の増加など）、世界人口の急速な増加による環境問題（地球環境・生活環境・社会環境など）と健康への影響、また、学校や地域、職域において健康の担い手としての職業について時に最低必要な知識と考え方、人口・疾病・死亡などの統計、疾病の原因追求や予防など健康増進のための対策、保健活動などについて幅広く学ぶ。</p>
健康管理概論	<p>個人や家族、学校・職場の仲間達が日々元気に過ごし、生甲斐のある人生を全うするには、その基本として心身の健康が必要であり、相互に支えあう事が大切である。本講では、このための知識としての健康の概念（健康の定義、集団の健康度、疾病予防の考え方等）、国民の健康水準（寿命、疾病・死亡の原因、健康水準の国際比較等）、健康増進施策（健康増進の考え方、健康増進の三原則）、国民の健康づくり（第一次・二次・三次国民健康づくり対策、老人保健事業等）になどに関する幅広い情報について、分かりやすく解説する。</p>
健康心理学	<p>健康心理学で扱う健康は、多面的であり、精神的なものはもとより、身体的、社会的側面を含むものである。本講義では心身の健康維持と増進および疾病予防に焦点を当て、疾患や健康が単に生理学的な現象のみならず、心理、社会、環境などと広く関連したものであることを理解し、健康を幅広く捉えることを学習する。健康行動、心身相関現象、ストレスマネジメント、ライフスタイル（生活習慣、ダイエット、嗜好等）やパーソナリティ特性と健康との関連等を中心に解説する。</p>
健康栄養学	<p>健康栄養学では、ヒトの健康と食生活の関わりについて様々な側面から学び、食が健康に及ぼす影響を理解する。食品や料理の特徴とその選択力を向上させる栄養や食事の基本知識をはじめ、生産、流通から調理、食品衛生といった食物として口に入るまでの食をとりまく社会的な環境要因や住居、家族構成など、個人のライフスタイルが健康と食に及ぼす影響、諸外国との違い等について解説する。また、健康で生きるためには、日々の食事をどう考えていけばよいのかに関する具体的な方法論についても学ぶ。</p>
学校保健	<p>心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての幅広い知識と理解を深め、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を主体的に実践できる力の育成を目指し、学校保健を推進するために必要な事項の理解を図る。子どもの健やかな成長を促すための心と体に関する様々な健康問題や、子どもたちの健康的な生活をおびやかす様々な今日的課題を捉え解決のための基本的な知識と手立てを習得する。</p>

学校安全保健	学校安全保健では、学校における幼児、児童、生徒、学生および教職員の安全と健康の管理、また施設・設備並びに学校生活の全てにわたる安全管理が対象となる。教職員は、学校内では生徒指導等との連携、学校外では地域や家庭、医療機関との連携等、多くの役割を担う。本講義では、学校安全保健活動を支える学校保健安全法の概略を理解し、学校が抱える今日的課題を踏まえながら、同法と学校安全保健の関連および両者を支える組織活動の重要性について理解を深める。	
教育心理学	今日の教育現場の教員にとって必要な発達心理学と学習心理学の理論の習得を目標とする。前半のテーマは、(1)教育心理学とは、(2)発達と親子関係の形成、(3)愛着の形成と養育態度、(4)ピアジェの発達理論、(5)認知の発達、(6)道徳性の発達、(7)向社会的行動、(8)学習と記憶、である。後半は、教育現場で必要な教育評価及び臨床心理学の理論と技法を中心に習得する。後半のテーマは、(1)知能と学習、(2)知能検査と遺伝、(3)教育評価、(4)学力とは、(5)教師のリーダーシップ論、(6)性格検査、(7)注意欠陥・多動性障害(ADHD)と学級崩壊、(8)学習障害と自閉障害、(9)カウンセリング、(10)認知行動療法、である。	
臨床心理学	臨床心理学は実践を重視するが、その範囲は広い。近年では特に学校領域における実践が重視されている。しかしどの領域においても実践にはその基盤である理論の理解が必須である。前期では、臨床心理学の基礎となる人の心の構造、発達、身体との相関、対人関係について理解することを目標とする。後期では、教育現場をはじめとして種々の領域での実践について、具体例を踏まえて、望ましい心理的アセスメントや心理的援助法について理解する。さらに現場での他職種との協働の重要性についても認識することを目指す。	
子どもの心理臨床	臨床現場において子どもに関わる際に必要な子どもの発達状態や心理状態に関する理解力を身につけることを目標とする。そのためには、受講者自身が児童期に体験した事柄と照らし合わせながら子どもの心理状態を把握する必要がある。すなわち、乳幼児期、児童期、青年期にかけて生じる心理的な諸問題を追体験により理解し、子どもにかかわる臨床問題を体験学習や課題レポート作成をとおして身につけることになる。	
精神分析学	フロイトが創始した精神分析学について、その誕生から現代にいたる歴史的な展開や基礎理論について講義形式で紹介する。精神分析が人のこころの世界をどのようにとらえ、理解しているのか、とりわけ無意識のこころの世界をどのように説明しようとしてきたのか、などについて学習するとともに、精神分析学に特有の精神発達論、精神病理学、治療技法論などにも触れる。必要に応じて参考文献を紹介し、ビデオ教材なども用いて、より具体的に奥行き深い人間理解を目指す。	
スポーツ経営学	スポーツ経営は、スポーツ文化の普及発展をめぐる方法論に関する実践的な領域である。本講義では、スポーツ経営学の基礎的な理論を解説し、スポーツ経営の全体像を俯瞰するとともに、スポーツ振興をめぐる諸施策や経営問題を批判的に理解することを目的としている。主に、スポーツ経営の構造論、経営資源論、スポーツサービス論、スポーツマーケティング論などについて解説するとともに、生涯スポーツ振興をめぐる経営問題、民間営利スポーツクラブをめぐる経営問題、トップスポーツをめぐる経営問題などを取りあげる。	
スポーツビジネス論	グローバルな規模で拡大する「スポーツビジネス」を広義でとらえると、スポーツを商品とした企業による営利活動にとどまらず、スポーツに関わる事業を実現するための活動の総体といえることができる。この講義では、プロスポーツのマネジメントやスポーツ商品の販売促進から、地域のスポーツクラブのマネジメントまで広義のスポーツビジネスについての基礎的な知識を学び、スポーツという商品ひいてはスポーツ文化の魅力を高める方法について検討することを目的とする。	
スポーツジャーナリズム	報道の世界を目指す者だけに限らず、人に感動を与えるスポーツの魅力を伝え、文章を書く面白さ、楽しさ、表現力などの捉え方を身につけ、社会全般を幅広く見てもらうことが目標。オリンピック、国民体育大会、多種多様なプロスポーツを取材してきた経験を基に、最終的には「スポーツとは何か」「スポーツの光と影」「スポーツの真実」を探っていく。スポーツライターを志す者には、基本的なスキル(企画、取材、原稿執筆)だけでなく、役割、社会的使命の基本姿勢を学習してもらう。	
スポーツ英語	グローバル化を果たした現代において英語は世界共通の言語として重要なポジションを確保している。本講義では、スポーツという世界共通のエンターテインメントプログラムを通じて親しみやすく分かり易い学習をすることを目的とする。主に英語圏で行われているスポーツイベントのライブ映像を活用し、スポーツ観戦を生きた教材として解説者の発音からイントネーションに至るコメントを聞き取ることでヒアリング力を強化する。ルールブック、スポーツの歴史書を用いて各種スポーツの概念から本質的な内容を理解することでスポーツ英語の基礎学習を行う。	

社会調査論	本講では、まず、科学的方法とはいかなるものであるかという科学哲学的な議論から出発し、若干の基礎的な数学的準備を経て、標本抽出の方法と各種調査技術の修得を最終的な目標としている。授業の内容理解には、通常の常識的思考方法とは異なる論理的推論能力を必要とするので、履修希望者は、予め基礎的な数学的及び統計学的な知識が備わっていることを前提としている。	
社会調査実習	社会のなかのさまざまな事象を調べていくために社会調査を自ら企画し、計画を立てて適切な方法で行なうこと、蒐集したデータを徹底的に分析し、そこからの確かな成果を報告書として公にできること、なおその際に、被調査者への倫理性にも注意を払いながら調査全般を遂行できること、以上が本講義のめざすところである。このために、社会調査とは何か、調査倫理とは何かを学んだうえで一年をかけて調査を実習して成果を公にしていく。そしてこれを通じて社会調査の手法を身につけていく。	
家族社会学	家族とは、最も身近で基礎的な社会集団とされるが、現代社会においては、家族の個人化が進むなど、家族のありかたは大きく変化し、さまざまな家族論が登場している。本講義では、家族の基本的な概念について学び、日本における家族の変化について、「近代家族論」を検討したり、現代家族の諸問題を概観したりしながら、現代の家族論の基礎を学ぶ。映像の視聴や、家族についての新聞記事などを取り入れて、具体的な家族像を提示し、学生自身の身近な家族や今後の家族形成についての理解を深めていく。	
現代社会特講	グローバル化、高齢化、経済格差、婚活、リスク、身体、生命操作、雇用不安、安心・安全、不確実性といったキーワードで切り取られるさまざまな今日の問題状況について考える方法を提示する。モノやサービスやポピュラーカルチャーに対する私たちの欲望が社会的に作られていることと、先述の問題状況との関連性についても考える。さまざまなメディア空間において展開されている具体的事例を用いつつ、関連がなさそうに見える諸々の事象に通底するつながりについて、自らの言葉で考えられるようにする。	
子ども文化論	子どもを考えることは、人間の一生、人と文化、人と社会の関わりをイメージする基礎的な事柄である。講義では写真や映像資料等を用いて、「子ども」の多様な生を概観し、視点を磨く。受講生各自の考えやアイデアを全体へとフィードバックしてもらい、授業のなかで新たな子ども文化論への視座を、ともに構築していく。	
遊び文化論	遊びは、現代社会において子どもの営みという狭い意味ではなく、人々の生きがいや自己表現の意味も含まれる。また、遊びは、既存の社会秩序や文化の枠組みを逸脱し、新規の社会・文化の領域を作り出す行為とも考えられている。本講義は、「遊び」を広く社会・文化的な人間活動の一環として捉え直すことが目標である。なお、講義の前半では、「遊び」に関する従来の論考を紹介し、文化現象としての遊びの考え方を習得する。後半では、具体的な遊びのケーススタディを通して、現代社会における遊びの意義を探究する。	
比較舞踊論	特に、フォークダンスを通して、踊る楽しさを体得しながら外国のフォークダンスの背景となる発生の由来や地域性、音楽、踊り方を探り国際的理解を深めながらフォークダンスの専門的知識を体得する。さらに指導者としての資質をも理解し教育現場で指導もできるようにする。また、日本の民謡の成り立ちを探究する。	講義 10時間 演習 20時間
身体と絵画表現	ひとの身体は、古今東西の絵画作品の中心テーマである。身体の図像は、社会的・文化的背景あるいは画家自身の心理状況によって変化する。本講義は、日本および欧米で制作された絵画、スポーツ・アニメ、漫画、人体解剖図などに描かれた身体にかかわる図像を精査することを通して、いかに身体が社会的・文化的な多様な意味の担い手であるかを芸術学の立場から理解することを目標とする。	
地域文化特講	特定の地域文化の探究から人間と社会の関係を多面的に理解することを目指す。前半は、地方での人々の暮らしや地域に生じた事件・出来事を忠実に記録したドキュメンタリー映像を題材に取り上げ、いかに各地方の社会や文化の実態が都会に住む第三者に伝えられているのかを考察する。後半は、本学の位置する川越を1つの地域文化研究のモデルとして取り上げ、多様な視点から川越における人々の暮らしや伝統文化を理解し、身近な地域社会を再認識することを目標とする。	
地域福祉論	地域福祉という考え方は、今日社会福祉の中核的な考え方である。本科目では、1. 地域福祉の基本的考え方、2. 地域福祉の主体と対象、3. 地域福祉に係る主要な行政と民間の組織、団体の役割と実際、4. 地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際、5. 地域福祉の推進方法（ネットワーキング、地域における社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法と実際、地域ケアシステムの構築方法と実際、地域における福祉サービスの評価方法と実際等）を主題にして講義し、その基本的な理解と考察の視座の形成を目指す。	

スポーツ科学実習：陸上競技初級	陸上競技は運動の基本である「歩く」、「走る」、「跳ぶ」、「投げる」の技能によって相手と競ったり、記録に挑戦することができる最もシンプルで楽しいスポーツである。シンプルではあるがリズムやタイミングといった簡単には身につけられない繊細で奥の深い運動技能も必要とされる。この授業では陸上競技の中のいくつかの種目を実践し、基本的な身体の動かし方を覚えること、瞬発力、持久力等の基礎体力の向上を特に「走る」ことを中心に学習すること目的として行う。また、基本的な計測の仕方などルール、審判法についても学習する。	
スポーツ科学実習：サッカー初級	サッカーの楽しさをベースに、基本的な技術の習得と個人戦術、グループ戦術の理解を深め、正確なキック、パスの質、動作のコーディネーションなどを中心に能力の向上を目指す。サッカーはチームプレーが必要だが、ここでは個人、グループのプレーを優先し段階として、更なる上級の為の基礎を学ばせる。また技術や戦術だけではなく、世界のサッカーを参考に世界のサッカーと日本のサッカーの違いや、年代ごとのサッカーの進化や、各大陸、各国のサッカーの特徴など広くサッカーについて学ばせる。	
スポーツ科学実習：サッカー初級	サッカーの個人戦術、チーム戦術は全てゴールを奪い勝利に導く為にある。個人戦術、チーム戦術を行うにはまず一人一人がきちんとした基礎を身につけていなければ難しい。よってこの授業ではボールを蹴る、止めることをベースにボールコントロール、ドリブル、パス、シュートのさまざまな基本技術、プレーの原理原則を理解し習得する。またポジションごとの役割・求められる能力を理解し、サッカーを楽しみながら正確な競技ルールを学んでいく。更にオフ・ザ・ピッチでは日本サッカーが世界と対等に闘う為に必要な事は何か？等ディスカッションしながらコミュニケーション能力を高めさせる事を目標とする。	
スポーツ科学実習：ダンス初級	前半は学校教育としてのダンスの動きを中心とし、音楽に合わせて身体練習、リズム練習、ダンスのための柔軟性に挑戦し、表現内容を広げて基礎的技術を体得する。また、スポーツ科学実習：ダンス上級につながる動きも学習する。更に後半はチアリーディングの概念とその歴史的背景を踏まえ、チアリーディングの基本的動作(ダンス・モーション等)を中心に学習する。	
スポーツ科学実習：器械体操初級	器械を使用する運動のため自己の「身体」を求心及び遠心的に覚醒認識する必要がある。マット運動と跳び箱、マット運動と鉄棒といった組み合わせによる器械体操の基本的な知識と技術を習得する。マット運動では、「逆立ち」から「倒立」、「側転」から「飛び込み前回り」といった連続、跳び箱では、アスレティックボックスなどを使い「ジャンプ前転」から「転回とび」、鉄棒は、「けあがり」を目標とする。	
スポーツ科学実習：バスケットボール初級	本授業は、バスケットボールを楽しむための基本的なルール、技術、知識、態度を学ぶことを目的とする。また、チームスポーツ特有の協調性やリーダーシップ、コミュニケーション能力の向上を目指し、生涯スポーツに参加する一つの契機になることをねらいとし、ゲームを中心に行う。 内容は、基本的技術としてレイアップシュートやゴール下シュートなどを行い、その後に応用的技術としてバスからのシューティングやランニングプレーなどを行い、段階的に技術を身につけていくものとなっている。	
スポーツ科学実習：バレーボール初級	本授業では数あるチームスポーツの中でもバレーボールという種目を通して、より多くの人達とふれ合う機会をもち、積極的に仲間づくりを行う姿勢を養うとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育むことをねらいとする。バレーボールを通してスポーツの意義を認識しながら、自主的に目標や課題を設定し、ルールの理解及びゲーム方法を工夫することによってスポーツ独自の楽しさを体得することを目標とする。また、ゲームを楽しむ行うために、基本的な技術の習得も目標とする。	
スポーツ科学実習：ソフトボール初級	ソフトボールは、もともと男女を問わず日本で活発に展開されているスポーツの一つであり、前回の北京オリンピックにおいて、日本女子チームが金メダルを獲得したことで脚光をあびた。ソフトボール競技の良さは、ボールゲームに比べて技術的に易しく、かつ危険をともないにくいため、年齢・性別を問わず幅広い層から支持されることである。この授業では、ソフトボールの競技特性を理解し、打つ・守る・走る・投げる等の基本技能を修得し、競技の面白さを体感し、簡易ゲームを通して仲間とのコミュニケーションを構築していくことを目標としている。	
スポーツ科学実習：ゴルフ初級	オリンピックの正式種目に選択されたゴルフは現在世界140カ国以上の国々で親しまれるグローバルなスポーツへと成長を遂げた。イギリス、スコットランドで発祥したゴルフが、その600年に及ぶ長い歴史の中で歩んできた背景を通じて、ゴルフ用品用具の進化とゴルフスイング運動方法に起こった変化と普遍性からスイングのメカニズムを追及して、ゴルフの本質をより良く理解してプレーを楽しむ。	
スポーツ科学実習：柔道初級	柔道の歴史や競技特性を理解し、基本動作・態度・对人的技能を習得し、相手の動きに応じた基本動作や技を用いて攻防を展開できるようにする。柔道を未経験者において学習しやすいよう柔道の歴史、柔道衣の扱い方などから説明していく。基本動作である姿勢、体捌き、受け身を十分に習得したうえで投げ技、固め技等を学習していく。また、柔道の試合の運営・審判法を習得し、基本動作を用いた簡易的な試合ができるようにする。さらに、自己の形成を重視する武道の伝統的な考え方を理解し、柔道指導法の理論を実習する。	

スポーツ科学専門科目	スポーツ科学実習：野球初級	<p>野球は囲いのある競技場で、監督が指揮する9人のプレーヤーから成る2つのチームの間で、1人ないし数人の審判員のもとに、規則に従って行われる競技である。各チームは、相手チームより多くの得点を記録して、勝つことを目的とする。</p> <p>監督・コーチ・選手・サポーター等の協力が必要不可欠であることを学び、野球に必要な体力・技術・知識を身につけ同時にゲームに勝つためにすべきことを考える。雨天時は、屋内練習場を使用する場合もある。</p>	
	スポーツ科学実習：テニス初級	<p>テニスの歴史、テニス用語、スコアの数え方、試合方法、テニスコートにおけるマナー、テニス観戦のマナーを習得し、その後、基本的なショットの打ち方を学ぶ。</p> <p>世界で、テニスコートのない国は非常に稀である。国際人のたしなみの一つとしてテニスを楽しむことができるよう、その基礎を身につける。社会人となり、生活の中で、または仕事上の付き合いなどでテニスをする必要性が出てきたときに、その技術を向上し易くするための基礎づくりを学ぶ。</p>	
	スポーツ科学実習：水泳	<p>4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の各種技術練習を通して、それぞれの泳法の基本技能を習得し、泳力の向上を図る。さらに、水泳の初心者指導法や4種目泳法の指導法、及びスタートやターンの指導法を理解し、指導実践の場で効果的な指導ができるようになることを目指す。また、泳法や指導法の習得のみならず、水泳指導にかかわる安全管理の方法や水上事故から命を守るための知識と技術なども習得する。</p>	
	夏期野外実習	<p>新潟県妙高高原の笹ヶ峰キャンプ場を利用して、夏季休業中（8月上旬）に3泊4日の実習を行う。本実習では、キャンプを実施する上で必要な基礎知識及び技術について実習する。集団生活を通して参加者相互の交流を深めながら、人間を取り巻く環境への関心を高め、人間関係を重視した生活を体験する。</p>	
	冬期野外実習	<p>国立妙高青少年自然の家を利用して、春季休業中（2月下旬）に3泊4日の実習を行う。本実習では、雪上キャンプを実施する上で必要な基礎知識及び技術について実習する。集団生活を通して参加者相互の交流を深めながら、人間を取り巻く環境への関心を高め、人間関係を重視した生活を体験する。</p>	
	レクリエーション実習	<p>現在、生涯スポーツの一手段として、また健康づくりを目的として、様々なレクリエーション・スポーツが行われるようになってきた。本授業では、それぞれの種目や活動が持つ特性や心理的、身体的、あるいは社会的な効果について考えながら、対象にあわせて指導を展開する際に必要なコミュニケーションスキルについても学習する。</p>	
競技スポーツコース専門科目	スポーツ運動学	<p>スポーツを安全に指導するため、またスポーツ活動中の動きの効率化を向上させるためには、そのために必要な身体的要素を科学的な視点から分析し運動方法を構築することが大切である。運動を上達させる、また怪我なく運動を行うためには、それぞれの運動に特有な運動の“コツ”をつかませることが大切であり、優れた指導者においては経験的に獲得した事実や知識を実際の指導に役立たせてきた。本講では、その科学的な視点と経験的な事実や知識の二つの観点から運動方法論について学ぶ。</p>	
	スポーツバイオメカニクス	<p>バイオメカニクス(biomechanics)は「bio」が「生物もしくは生命」を、「mechanics」が「力学、機械学、機能的構造」を意味しており、生体の構造や機能を力学的に解析する学問領域を示す。ヒトの日常生活からスポーツ活動における動き(動作)は、身体内部(筋)で発揮される力が骨格などの身体構造を介して外部に発揮される。さらに、力学的性質(重力、空気抵抗)などが影響しパフォーマンスとなる。本授業では、動き、機能解剖、筋生理学、物理の基礎を学び、身体運動の機序を理解することを目的とする。</p>	
	動作分析法	<p>スポーツ・健康を対象とする学問領域において科学的なアプローチを展開する際に、身体動作や身体部位の位置関係・身体動作を支える心理的な側面を測定する事が必要となる。本演習では、身体動作と身体動作を支える心理的な側面を測定するために、実際の機器操作を通して動作解析システムやセンサーによる測定機器等の基本的な操作方法や動作原理を学び、得られた数値データの解釈を行うために必要となる知識とデータ解析方法についての理解を深める。</p>	<p>講義 20時間 演習 10時間</p>
	スポーツ戦術論	<p>(概要)この講義は、ソフトボールという競技を通してその戦術論を考え、学んで行くものである。戦術論の根幹は“強いチーム作り”にある、という私自身の信念に基づき、それを実践できるリーダーの育成が必要不可欠かつ最重要課題だと考える。</p> <p>(宇津木妙子 / 2回)授業の中では、リーダーが「選手のひとりひとりどどのように向き合うか」、「適材適所の選手作りをどのように行うか」等について学生が論及して行くことで“強いチーム作り”のためのノウハウを学ぶ。</p> <p>(三科真澄 / 13回)リーダーやチームの資質を高めるための具体的な手法として、1. 個々の自己表現、2. 相互理解とコミュニケーション、3. チームのルール作り、以上の3つのポイントについて実践例を交えながら講義を行う。</p>	

スポーツ指導者論	<p>ヒトは、それぞれ固有の個人的諸条件(個人差)を有している。スポーツ実施者に対し、固有の可能性を引き出すことがスポーツ指導者の役割である。また、チーム競技においては、個人の能力の集約もスポーツ指導者の役割である。したがってスポーツ指導者は、スポーツ実施者の個人差を十分認識し、指導現場に活かす(スポーツ実施者個人及びチームに適した指導)能力が求められる。本授業では子どもから高齢者を対象とし、実施者の目的、個人差を考慮した指導法及び安全対策、危機管理について理解することを目的とする。</p>
スポーツトレーニング論	<p>本講義ではスポーツトレーニングの実践に必要な理論を総括的に学ぶ。まずトレーニングの原則とその基礎理論を理解する。次にスポーツに求められる「体力」について、その概念を理解し、体力諸要素を高めるための各種トレーニング方法を展開する。続いて、スポーツの「技術」の概念及び技術習得に関わる諸理論、及びトレーニング方法を展開する。最後に、スポーツパフォーマンスの構造を全体的にとらえ、その向上と発展を目指したトレーニング計画の立て方、進め方を学ぶ。</p>
コンディショニング論	<p>コンディショニングとは、身体や精神の状態を表す「condition」と、その状態が進行中である「ing」の合成語であるが、基本的には目的に向かって、あるいは試合に向けて、特に身体をより好ましい方向に整える、働きかけることを意味する。またそれを目的として実施している。したがってスポーツ競技における目標や健康を維持するための身体活動が栄養、休養、環境等のさまざまな要因がどう影響し、生体機能にどう及ぼすかを概説しその対処の仕方を学習する。</p>
メンタルトレーニング論	<p>メンタルトレーニングはスポーツ選手や指導者が競技力向上のために必要な心理的スキルを獲得し、実際に活用できるようになることを目的として行われる心理学やスポーツ心理学の理論と技法に基づく計画的で教育的な活動である。それゆえ、体力やスポーツ技術のトレーニングと同様に心理面においてもトレーニングが必要であることを理解し、心理スキルトレーニングの方法について、その学術的背景や基礎的用法に関する知識の習得を目指す。併せてスポーツカウンセリングとの相違についても理解を深める。</p>
スポーツ政策	<p>我が国(国・地方自治体)のスポーツ・体育行政における今後のさまざまな課題やスポーツ振興に関わる諸条件を整備し推進するためには、現在進行中の行財政改革や構造改革、規制緩和、地方分権の推進、NPO・ボランティア活動等の現状を考慮しながら、その法的根拠や推進のための組織、具体的施策、財政的措置などを十分に理解する必要がある。本講では、スポーツ・体育行政の基本となる組織や制度、法令や条例などの仕組みについて理解するとともに、今後の我が国におけるスポーツ行政の望ましい方向性について、わかりやすく解説する。</p>
スポーツ法学	<p>スポーツの社会制度の基礎となっているスポーツ法に関する基礎知識を習得し、現代社会におけるスポーツに関する諸事象および諸課題を法的側面から理解する。また、スポーツ法学に関する基礎理論を国内外の学説や判例の動向も踏まえて解説する。具体的には、国および地方公共団体のスポーツの振興に関する法令、スポーツ権とその保護法、スポーツ事故とその法的責任、プロスポーツやスポーツビジネスに関する法、ドーピング法、スポーツ団体組織に関する法、スポーツ仲裁に関する法、スポーツに関する条約や憲章などを取り上げる。</p>
スポーツ教育学	<p>語源的にスポーツとは、人間が義務的・強制的に為さねばならない実用的活動から離れた楽しみの行為(遊び)を意味する。人間をHomo Ludens(遊戯人)と見るならば、人間はスポーツをとおして文化を発展させてきた。しかし、それを価値ある人間的行為に向かわせるためには教育的な視座が必要である。それにより、スポーツは単なる身体的鍛錬を超えた人間の自己実現へと向かうことができる。本講義では、教育の視点からスポーツを捉え、現代におけるスポーツ教育の意義を考察する。学校教育における体育を題材として、その目標、内容、方法を学ぶ。</p>
地域スポーツ論	<p>地域におけるスポーツは、「社会体育」、「コミュニティ・スポーツ」、「生涯スポーツ」と変化しながら、大きな役割を担ってきた。2000年のスポーツ振興基本計画では、総合型地域スポーツクラブの設立などがうたわれ、地域スポーツの発展が図られるようになり、さらに2010年のスポーツ立国戦略においても、総合型地域スポーツクラブが地域スポーツ振興の中核に位置づけられている。新たなクラブ創りは、高齢者や障がい者、さらに地域にスポーツのネットワークを持たない住民といったスポーツ・マイノリティ(弱者)の環境改善にとって有効となるものでもある。本講義では、過去・現在・将来における地域スポーツについて、複合的な視点で考え、理解することを目的とする。</p>
発育発達論	<p>人間の受精、誕生、成長、成熟、老化の過程を概観し、生涯におけるこころと身体の発達、行動の発達とスキルの獲得が、どのような社会的要因や条件によって規定されているのかについて学ぶことを目標とする。講義では、生涯発達の視点から人間の一生を乳児期から老年期に分け、各時期に重要な健康に関する諸問題や、望ましい生活環境、スポーツとのかかわりについて、近年の研究知見や報告を紹介しながら概説していく。</p>

コンディショニング実習	本講座は、トレーナー（トレーニング指導者）を目指す者が、現場で実際に指導を行い体験してもらうことを目的とする。強化部の練習や、一般学生あるいは一般人に対して実際に指導したり、また本講座の学生同士で指導をし合うことで、机上の理論からは学べない人対人の部分を感じてもらいたい。指導者を養成する目的で行うので、遊び半分での受講は単位取得が困難と思っていただきたい。	講義 15時間 演習 15時間
コンディショニング演習	本講座は、トレーナー（トレーニング指導者）が、普段から実践すべきことを実際に行ってもらうことを目的とする。トレーナーという仕事は、自分が行わせようとする運動が実際にどの程度キツいのか、どういった反応がおこるのか、実際に体験しておかなければならない。教わる側も、スクワットができない指導者にスクワットを教わりたくないのである。現場で活躍しているトレーナーの多くは、少ない時間で自身のトレーニングを行っている。そういった習慣を身につける場と考えていただきたい。	講義 15時間 演習 15時間
メンタルトレーニング演習	「メンタルトレーニング論」の受講により、メンタルトレーニングの基礎的な知識を得たうえで、心理スキルのエクササイズやグループワークの実践を通じて、体験的にメンタルトレーニングへの理解を深めることを目的とする。また、各自の心理的課題に応じた心理スキルの実践と評価を行うことにより、目的に合わせたメンタルトレーニングプログラムを立案し、実践し、評価していく能力や態度を養う。	
スポーツ科学実習：陸上競技上級	「より速く、より高く、そしてより遠くに」を目指し実践するのが陸上競技の醍醐味であり、古代オリンピックからずっと行われ、常に人間の体力の限界に挑み続けているスポーツ種目でもある。したがってトレーニングの科学についてもあらゆる分野で常に最先端を進んでおり、多種多様な研究がなされている。この授業では陸上競技における基本動作や応用技術を理論的に理解し、特に特異な動作を必要とする技術系種目について実践を踏まえて学習する。また指導者の立場からの技術の理解、トレーニングの方法、指導上の留意点などを実技を通じて学ぶ。	
スポーツ科学実習：サッカー上級	個人の技術戦術、グループ戦術をベースに、チームプレーの連携すなわち動きの運動性、プレーのコンビネーションの重要性を理解させ、ゲームを進める上でシステムやスタイルのストロングポイント、ウィークポイントなどチーム戦術の理解を深め、ゲーム中心に能力の向上を目指す。またチームプレーだけに、協調性やコミュニケーションスキルの大切さを学ばせ、社会人としての基礎を構築させる。さらにルールやマナー、フェアプレーについての知識や考え方を理解させ、指導者としてのC級ライセンス取得に役立てさせることを狙いとする。	
スポーツ科学実習：サッカー上級	本授業ではゴールを奪う為に必要な能力～個人の技術戦術、チーム戦術（戦術理解力）、精神力、身体能力を高める事を目指す。プレーにおけるサイクル『見る』『判断』『アクション』を繰り返しプレーする事、そしてプレーの原理原則を理解し、サイクルとの関係性を深めて行く事により、常に頭を働かせ、次を考えながら効率的なプレーを選択する事を狙いとし、ゲーム中心にフォーメーションやシステムごとの特徴を理解しチームとしての戦い方を構築していく。そしてサッカーを通し、協調性、コミュニケーション能力の大切さを学び、社会でのリーダーになっていける自立した人間力を養う事を目標とする。	
スポーツ科学実習：ダンス上級	学校教育としてのダンス指導に焦点をあて、ダンスの授業内容である現代リズムダンス・創作ダンスを展開する。その中で各種ダンスの基本特性を効果的に融合させた学習の場を開発する。更にダンスの授業の基本的な単元計画のあり方と、学年に応じた指導手順を具体化し、指導案の作成方法及び効果的な指導展開について学習するとともに模擬授業を体験する。	
スポーツ科学実習：器械体操上級	器械体操の「美」と「怖さ」についての認識を深めると同時に「わかる」だけの次元から「出来てわかる」次元の認識展開が必要不可欠である。マット運動は、バク転及び前方宙返り、跳び箱では、転回・側転・転回ヒネリ、鉄棒では、正・逆車輪・後方腕支持倒立、トランポリンでは、前・後方宙返り及びヒネリ或いは連続を目標にする。マット運動は、全過程において基本とする。	
スポーツ科学実習：バスケットボール上級	本授業は、バスケットボールの競技特性やチームにおける個人の役割、責任について学ぶことを目的とする。また、専門的な戦術や指導法、審判法について理解することで指導者としての知識や考え方を身につけ、実践できるようになることをねらいとし、ゲームを中心に行う。 内容は、初級で学んだ技術や知識を基にして個人、及びチームにおけるオフenseやディフェンスに関する応用的な練習を行う。それらを通して、バスケットボールにおける戦術やそれらの指導法、さらには審判としての着眼点について体得するものとなっている。	
スポーツ科学実習：バレーボール上級	バレーボールに関する基本的技能の練習法や試合の運営方法、ルールの理解を深め、実際の試合を想定して行う。また、他人とのコミュニケーションを促進するような工夫をする。それらの技術を駆使した練習やゲームを通して、仲間との協調性やリーダーシップを養い、バレーボールの競技特性及び楽しさや素晴らしさを指導する能力を身につけることも目標とする。	

<p>スポーツ科学実習：ソフトボール上級</p>	<p>この授業では、打つ・守る・走る・投げるという基本技能の上に、生涯スポーツの観点からさらに一歩競技特性の理解を進め、審判法・ボールスキル・ゲームの進め方やトレーニング方法にも言及し、未永く愛好できるように基本的知識の習得を目指す。なお、ゲーム練習を通して、どのように考えどのように動いたらチームのためになるかなども考えることで、参加学生の相互のコミュニケーションを一層促進したい。</p>	
<p>スポーツ科学実習：ゴルフ上級</p>	<p>グローバルスポーツとして普及し、世界的なプロツアーとして成功を収めるようになった背景にある競技人口の増加とスター選手の若年齢化が注目を集めるようになった事で大きく変化したゴルフ技術と新しい時代に適合した習得方法を研究し、誰にでも明快に理解でき、実践が可能なゴルフの学習法を追究し、自ら上達を実現するとともに正しいゴルフ上達指導を実現できる運動方法をスポーツ科学実習を通じて学ぶ。</p>	
<p>スポーツ科学実習：柔道上級</p>	<p>柔道の基本動作・態度・对人的技能、試合の運営・審判法を十分理解し、試合を行うことができるようにするために、基本動作から審判法まで柔道全般に関する項目を十分理解できるように実習していく。さらに、柔道の形の一つである「投の形」を学習し、柔道の指導者や体育教師を目指していく上で、講道館が発行する「初段」の取得を目標とする。さらに、柔道における効果的な指導法（学校等における初心者指導法）の理論と実習を行う。</p>	
<p>スポーツ科学実習：野球上級</p>	<p>「楽しむスポーツ」というよりも「競技スポーツ」として授業を行う。野球の技術が上手いからと満足するのではなく、野球を通じて強い精神力を鍛えチームメイトや対戦相手に対する思いやりの心を持てるようにする。技術的には、捕る・投げる・打つ・走る・守ることの基礎を徹底的に練習をし、ゲームで応用できるようにする。 上級編ではあるが、キャッチボールの重要性を再確認をして、ゲームを多く取り入れて、1点を取ることや、守ることの難しさを学ぶ。雨天時には、屋内練習場を使用する場合もある。</p>	
<p>スポーツ科学実習：テニス上級</p>	<p>テニスは、紳士淑女のスポーツと呼ばれている。相手を敬い、思いやる精神が、子供から高齢者まで、そして男女が一緒にプレーすることのできるスポーツとして成り立たせている。二人いればボールを打ち合うことのできるテニスは、生涯スポーツとして是非学生諸君の身につけていただきたいスポーツである。 テニスを楽しむことができる知識と技術を身につけ、世界のどこへ行って、ある程度のレベルの試合を楽しむことができるように、その基礎を学習する。</p>	
<p>上級サッカー</p>	<p>サッカー競技では、相手がボールを保持している時、自分達がボールを保持している時また速攻の場面であるのか、遅攻の場面なのかさまざまな状況下に応じて戦略などを判断していかなければならない。この上級サッカーでは、攻撃・守備において色々なシチュエーションを設定し個人・グループ・チーム戦術や技術を学び実践することでスキルアップを目指す。また現代サッカーでは、セットプレーが非常に重要な場面として位置づけられており、攻撃においては選手の入り方（パターン）やキッカーの質などがあり、守備においては、FKに関しての壁の作り方や配列などを学び実践にて行なう。</p>	
<p>上級サッカー</p>	<p>試合で出た現象や課題を分析し抽出し、トレーニングで改善して試合を行なうというM-T-M（マッチトレーニングマッチ）をグループで実践して行う。ビデオやミーティング等々を用いて戦術等の理解、技術の習得を学ぶ。 また、対戦相手のスカウティングをして戦術・システム・セットプレー・個人プレーヤーを分析し、トレーニングを行い対応策など考えながら、いかに有利に試合の主導権を握れるか、どう試合を進めるかなどのチーム戦術を学ぶ。</p>	
<p>上級ゴルフ</p>	<p>ゴルフは世代、性別、技量を問わず同じゴルフ場で同時にプレーをすることが出来る素晴らしい生涯スポーツです。この授業ではゴルフスイングの基本（グリップ、構え方など）を理解し、実際の練習を通じドライバーからバタまで全てのクラブを使えることを目標とする。さらに飛距離を伸ばす方法や曲げないためのテクニックなどを習得していきます。簡単なゴルフ用語やルールについても理解し、紳士のスポーツであるゴルフの原点を学習する。</p>	
<p>上級ゴルフ</p>	<p>前半は実際の練習を通じドライバー、フェアウエーウッドを中心に実習します。ボールに回転がかかる原理を理解し、ボールを飛ばし、曲げないためのスイングを学習します。後半はアイアンショットの技術の習得を目標。特にドライバーとのスイングの違いを理解しスイング軌道を学ぶ。後半はアプローチやバンカーショットそしてパターの打ち方を実習し、距離感の出し方などの習得を目指す。また、ゴルフで重要なマナー、ルールの知識を学習し社会人としてのゴルファーとなるまでを学習する。</p>	
<p>スポーツ専門科目 アスレティックトレーナー論</p>	<p>アスレティックトレーナーの役割や業務とアスレティックトレーナーに求められる資質、アスレティックトレーナーとして選手および、コーチ・医師などの他のサポートスタッフとどのように関わるべきかを学ぶ。アスレティックトレーナーに求められる役割・業務および、アスレティックトレーナーに必要な資質を理解し、必要な能力を進んで獲得できるようになることを目標とする。また、他のスポーツスタッフの役割についても学び、アスレティックトレーナーとの類似点および相違点を考えていく。</p>	

アスレティックリハビリテーション論	<p>スポーツ選手に好発する傷害について概説し、それぞれの傷害の受傷からスポーツ復帰までにどのように対応すべきかについて学ぶ。スポーツ選手およびスポーツ愛好家が傷害を負った場合には、単に日常生活が可能となるだけでは十分でなく、できるだけ早期に、安全にスポーツ復帰することが求められる。そのニーズに応えるために、各傷害の受傷機転や病態、治療法および危険因子、またスポーツ復帰に向けたリハビリテーションの流れと注意事項について理解し、説明できるようになることを目標とする。</p>	
スポーツ外傷・障害	<p>スポーツ外傷・傷害の基礎知識として、定義、分類、傷害発生メカニズムやその診断、予防の理論的な背景や考え方を理解する。次に、スポーツ傷害の年齢・性別・競技特性等を解説し、傷害のバイオメカニクスと修復メカニズム等を概説する。さらに、各論として、部位別に、スポーツ活動に伴う頭部、頸部、肩、上腕、肘、前腕、手、腰部、背部、骨盤・股関節、大腿、膝、下腿、足・足関節における代表的な外傷・傷害について解説する。</p>	
スポーツ外傷・障害	<p>スポーツ選手の外傷・傷害の予防から復帰のために必要なメディカルチェック、救急処置からリハビリテーションの基本を学習する。次に、四肢外傷の基本的処置であるRICE処置を含む部位別、外傷・傷害別に救急処置の基本を学ぶ。さらに、競技復帰を目指したアスレティックリハビリテーションの基本、進め方、注意事項などについて解説する。また、スポーツ外傷・傷害に対する物理療法、温熱療法などの有用性についても紹介する。</p>	
障害者スポーツ論	<p>障害があっても、僅か工夫をこらすことによって、誰でもスポーツに参加できるようになる。わが国は超高齢化を迎え加齢による機能障害などを併せ持つ高齢者が増えることが予想される。本授業では、身体障害者、知的障害者、精神障害者のそれぞれの「障害」を理解し、障害者にとってスポーツに参加することがいかに重要なことであるか、さらに、障害のある人々が行なっているスポーツ活動、各種大会、支援、援助について理解すること目的とする。 また、本授業では生涯にわたりスポーツに参加する意味や意義についても授業を行なう。</p>	
運動療法論	<p>運動が高血圧、糖尿病、脂質異常症に代表される生活習慣病や筋骨格系障害、神経系障害等の症状を改善することはよく知られている。本講義では、生活習慣病の予防や改善、筋骨格系および神経系障害の改善に対し、どのような運動や生活動作が適切なのか、運動の実施方法や注意点、効果の確認方法等についての知見を概観する。また、各種運動療法を実施する際の理論的根拠について、代表的な疾病や障害の症例を通して、解剖学や生理学、運動学等の関連する知見についての理解を深める。</p>	
体力測定評価	<p>スポーツ指導者(トレーナーを含む)は、選手選抜、トレーニング効果の分析など、選手の体力・運動能力データを収集する機会が多い。本授業目的は、スポーツ領域における各種測定の意義や手法、及び健康管理やトレーニングに活用できる評価方法を理解することである。さらに、授業では、実際に体力・運動能力測定を実施し、測定結果から平均値や標準偏差といった記述統計、相関分析や分散分析といった推測統計を用いた測定参加者へのフィードバックを行なう。</p>	
運動処方論	<p>運動処方の基本、運動の効果等を概説し理解させた上で、健康チェックシステム(オリエンテーション、インフォームド・コンセント/チョイス、メディカルチェック、形態・体力測定、総合判定等)のスムーズな流れや実際の調査・検査・測定法及びその注意点に触れ、運動処方箋作成基準〔処方タイプ、運動処方の3条件・6原則・6要素(運動種目・強度・時間・頻度・時刻・期間)〕、運動処方箋・プログラム(健康・肥満・有疾患者用、施設・家庭・職場用)に関する幅広い知識を習得させる。</p>	
スポーツコーチング論	<p>スポーツにおけるコーチングは、選手(生徒)をスポーツ活動に向けて動機づけ、実際に指導し、スポーツのパフォーマンスを發展させ、さらにはスポーツ活動を通じて身体的及び精神的な成長を目指すものである。従ってコーチングに必要なのは、スポーツの専門的な知識や技能に加え、動機づけやリーダーシップなどの対人的なスキル、学習環境の整備などが重要となる。本講義では、コーチングを実践するうえで必要となる心理、教育、社会的な諸理論を紹介し、それらを指導場面に展開していくための具体的な方法を提示し、コーチングのスキルを向上させることを目的とする。</p>	
運動トレーニング基礎理論	<p>運動トレーニングに関する現在までの科学的研究成果を基盤として、健康の保持・増進、リハビリテーションのためのトレーニングおよび競技スポーツのためのトレーニングについて、トレーニングの目的、方法および効果について論じる。また、トレーニングの科学的基礎となる運動生理学の知見についても理解を深める。さらに、トレーニング効果を高めるための栄養や休養を含めたコンディショニングについて言及し、安全性と効率性をもった適正なトレーニングの選択や運動プログラムの作成および実施方法について学習する。</p>	
救急・応急処置	<p>日常生活のなかで、さまざまな体調不良の訴え、スポーツでのケガや事故、プールや川遊びでの事故、さらには熱中症など急激な体調の変化や治療を必要とする怪我を経験すること珍しいことではない。本講義では、切り傷・擦り傷などの軽度傷害、発熱・貧血・頭痛などといった早急に命にかかわる問題ではない体の変化から、命に関わるような心臓停止や呼吸停止に至る状態まで救急処置ができるように学習する。さらに、AEDの使用の仕方や、救急車あるいは医者へ患者を引き継ぐまでに必要な行動について学ぶ。</p>	

スポーツ科学科専門科目	スポーツトレーナーコース専門科目	カウンセリング	前半では、臨床現場における面接の技術や絵画療法など、カウンセリングの基本的な技法を理解するとともに、受講者自身の生活に実際に適応する方法を習得することを目標にする。後半では、催眠療法や行動療法など、カウンセリングの多様な技法を深く理解するとともに、学生同士で相談・面接などの実習を中心に授業を進め、体験的に心理療法の技法を習得することになる。主要なテーマは次の通りである。(1)面接の技術、(2)精神科コンサルテーション、(3)査定面接、(4)絵画療法、(5)箱庭や夢、ファンタジー、(6)心理療法の諸技法	
		スポーツ生理学実習	スポーツ活動に伴う呼吸器、循環器、筋、脳および脊髄神経活動等の変化についての理解を深めるために、運動中の人体の生理学的応答を実際に測定する。実験実習を通じて、各種身体機能の一時的変化や適応現象の測定方法および得られた測定情報の処理方法を習得する。また、得られた測定結果を図や表に表わして発表する。測定結果は実験状況によって変動するため、予想される結果と異なることが多い。このような実験結果に対し、既に学習した生理学的知識の動員や新たな知識の獲得によって、様々な角度から考察を加える。	演習：14時間 実験：16時間
		アスレティックリハビリテーション演習	代表的な傷害のアスレティックリハビリテーションについて最新の知見および最新知見の収集方法を解説する。その後、各自で文献を調査し、まとめ、発表する。 必要な情報を収集し、わかりやすく加工して発表するスキルを身につけるとともに、現在行われているスポーツ傷害の治療法やアスレティックリハビリテーションのトレンドを理解することを目標とする。主に対象とする傷害は、足関節捻挫、膝関節前十字靭帯損傷、腰痛症、肩関節脱臼、肉離れ、シンスプリントとする。	講義 20時間 演習 10時間
		アスレティックリハビリテーション実習	アスレティックリハビリテーションを実施する際には、アスレティックトレーナーが競技およびスポーツ動作についてよく理解していなくてはならない。本授業では、代表的なスポーツ動作の基本的な技術および専門的なトレーニングの方法を実習し、自身が身につけ、理解するとともに、他者に段階的に指導できるようになることを目標とし、自身が経験したことのない競技種目の選手に、自身の経験したことのない傷害のアスレティックリハビリテーションを処方・指導できるようになることが最終目標である。	
		アスレティックトレーナー現場実習	実際の競技スポーツの練習現場に参加し、スポーツ現場における選手を取り巻くコーチングスタッフ・スポーツドクター・医学系スタッフ・アスレティックトレーナーの働きを見学する。見学を通じて、アスレティックトレーナーの果たす役割を把握し、自身が今後どのようなことを学び、どのように取り組んでいくべきかを見いだすことを目標とする。実習に参加する際には、実習受け入れ先の競技の特徴やルールなどを十分に予習しておくよう授業前学習を促す。	
		アスレティックトレーナー現場実習	アスレティックトレーナーには、選手の体力や体調、傷害の状態などを検査し、測定・評価することが求められる。本実習は、第一に基本的な測定評価手技を習得し、その後実際の競技スポーツ現場において、競技特性を考慮した身体計測や体力測定、傷害の状態把握に関わる取り組みを企画し、定期的もしくは常時実施していくことを課題として実施する。また、測定評価実施後には結果を分析し、結果と結果から考えられることを対象者にフィードバックする。	
		アスレティックトレーナー現場実習	本実習では、競技選手のパフォーマンス維持・向上に必要なトレーニングおよびコンディショニングの計画および実践を行う。その際、実習先のコーチなどのスタッフとの連携を緊密にとり、各競技特性およびチームのおかれた状況や目標を考慮したプログラムを立案し、実施することが課題となる。第一段階として、日常的におこなうことができる基礎トレーニングやコンディショニング方法を立案・実施し、その後個別のトレーニングプログラムなどの処方を行えるようになることを目標とする。	
		アスレティックトレーナー現場実習	本実習では、傷害を負った競技スポーツ選手に対して、競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーションプログラムを立案し、実施する。傷害の程度や状態、選手のレベルおよびおかれた状況を考慮して段階的なアスレティックリハビリテーションを実施できるようになることが課題である。アスレティックリハビリテーション実施時には、医師およびチーム関係者と緊密に連絡を取ることの必要性および、必要な情報を自身で収集し、プログラムの立案、修正に役立てていくことの重要性を指導する。	
		アスレティックトレーナー現場実習	実際にアスレティックトレーナーとしてスポーツ現場で活動する。実習中は、選手、コーチ、医師、指導担当のアスレティックトレーナーとの連絡を密にとり、選手に対してトレーニングやコンディショニング、アスレティックリハビリテーション、検査測定と評価を提供する。アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場での対応力を養うことが目標であり、あらかじめ計画していた活動以外に突然求められた事柄にも対応できるように授業前学習を促していく。実習状況を把握するために定期的に面談を行う。	
アスレティックトレーナー現場実習	アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場での活動する際には、トレーナー同士の組織の運営を行うことが必要不可欠である。チームや選手に関する情報を共有したり、必要な業務をうまく分担したりできなければ、効率的なパフォーマンス向上に寄与することは難しい。本実習では、スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして活動していかなくて、トレーナー同士の組織を構築し、運営していく。効率的な業務分担および必要な情報共有がなされることが目標である。実習状況を把握するために適宜面談を実施する。			